

5) 症状群別非特異的 IgE, スギ特異的 IgE 抗体の陽性率

症状群別に非特異的 IgE 抗体の陽性率をみると(表7) 東大阪(症状なし:15.4%, 粘膜症状:24.3%, 花粉症状:23.3%), 宮崎(症状なし:21.0%, 粘膜症状:27.1%, 花粉症状:22.6%)とも粘膜症状群で最も高率であり次いで花粉症状群、症状なし群の順であった。

地区別にみると花粉症状群、粘膜症状群では宮崎で僅かに高率であったが有意な差ではなかった。

スギ特異的 IgE の陽性率については東大阪(症状なし:17.4%, 粘膜症状:59.9%, 花粉症状:44.0%), 宮崎(症状なし:23.6%, 粘膜症状:66.1%, 花粉症状:37.4%)と粘膜症状群で最も高率、次いで花粉症状群、症状なし群の順であり、非特異的 IgE の陽性率に比べ症状間の差は大きく症状なし群と粘膜及び花粉症状群との間には有意な差がみられた。

表7 地区・性・症状別非特異的・スギ特異的 IgE 抗体陽性率

性	症状区分	東大阪			宮崎		
		受診数	非特異的 IgE 陽性	スギ特異的 IgE 陽性	受診数	非特異的 IgE 陽性	スギ特異的 IgE 陽性
男	粘膜症状	239	58 (24.3)	144 (60.3)	140	38 (27.1)	95 (67.9)
	花粉症状	307	75 (24.4)	128 (41.7)	132	32 (24.2)	50 (37.9)
	症状なし	412	65 (15.8)	71 (17.3)	302	68 (22.5)	72 (23.8)
	計	958	198 (20.7)	343 (35.8)	574	138 (24.0)	217 (37.8)
女	粘膜症状	53	13 (24.5)	31 (58.4)	37	10 (27.0)	22 (59.5)
	花粉症状	41	6 (14.6)	25 (61.0)	23	3 (13.0)	8 (34.8)
	症状なし	82	11 (13.4)	15 (18.3)	45	5 (11.1)	10 (22.2)
	計	176	30 (17.0)	71 (40.3)	105	18 (17.1)	40 (37.7)
計	粘膜症状	292	71 (24.3)	175 (59.9)	177	48 (27.1)	17 (66.1)
	花粉症状	348	81 (23.3)	153 (44.0)	155	35 (22.6)	58 (37.4)
	症状なし	493	76 (15.4)	86 (17.4)	348	73 (21.0)	82 (23.6)
	計	1134	228 (20.1)	414 (36.5)	680	156 (22.9)	257 (37.8)

() 内: %

非特異的 IgE 抗体陽性: 200 IU/ml 以上

スギ特異的 IgE 抗体陽性: スコア 2 以上

花粉症状: 花粉症状に該当する症状があり、治療または薬剤を使用したことのあるもの。

粘膜症状: 花粉症状に該当する症状があるが、治療または薬剤を使用したことのないもの。

地区別にみると非特異的 IgE 抗体の陽性率と同様に粘膜症状群、症状なし群では宮崎、花粉症状群では大阪が僅かに高率であった。

鼻・眼アレルギーの症状が I 型アレルギーによるものと考えると花粉症状の 42%、(東大阪:44%, 宮崎:37.4%), 粘膜症状の 62.8% (東大阪:59.9%, 宮崎:66.1%) はスギ花粉によるものと考えられるが、花粉症状の 58% (東大阪:56%, 宮崎:37%), 粘膜症状の 37.2

% (東大阪 40 %, 宮崎 34 %) は局所的に反応しているもの又は I 型アレルギー以外の因子によるものとも考えられるが、この地域差の原因については今後の検討が必要である。

6) スギ花粉症及び軽度スギ花粉症の有症率

花粉症状があり、スギ特異的 IgE 抗体が陽性であるものを「スギ花粉症」とし、粘膜症状があり、スギ特異的 IgE 抗体が陽性であるものを「軽度スギ花粉症」として、その有症率をみると、スギ花粉症有症率は東大阪で 13.5 % (男:13.4 %, 女:14.2 %), 宮崎で 8.5 % (男:8.7 %, 女:7.5 %) と両地区の間に有意の差が見られた。軽度スギ花粉症の有症率は東大阪で 15.4 % (男:15.0 %, 女:17.6 %), 宮崎で 17.2 % (男:16.5 %, 女:20.7 %) と東大阪の有症率に比べ宮崎の方が僅かに高率であった (表 8)。

表 8 スギ花粉症・軽度スギ花粉症の有症者 (率)

性	年 齢	東 大 阪			宮 崎		
		対象数	スギ花粉症	軽度スギ花粉症	対象数	スギ花粉症	軽度スギ花粉症
男	39 歳以下	226	36 (15.9)	48 (21.2)	58	8 (13.7)	11 (18.9)
	40 ~ 44 歳	212	32 (15.1)	33 (15.7)	139	11 (7.9)	26 (18.7)
	45 ~ 49 歳	239	29 (12.1)	36 (15.1)	260	24 (9.2)	43 (16.5)
	50 ~ 54 歳	175	21 (12.0)	21 (12.0)	91	6 (6.6)	14 (15.4)
	55 歳以上	106	10 (9.4)	6 (5.7)	26	1 (3.9)	1 (3.9)
	計	958	128 (13.4)	144 (15.0)	574	50 (8.7)	95 (16.5)
女	39 歳以下	34	5 (14.7)	12 (35.3)	26	1 (3.8)	5 (19.2)
	40 ~ 44 歳	33	5 (15.2)	8 (24.2)	28	1 (3.6)	10 (35.7)
	45 ~ 49 歳	58	9 (15.5)	8 (13.8)	21	4 (19.0)	2 (9.5)
	50 ~ 54 歳	35	3 (8.6)	2 (5.7)	14	1 (7.1)	4 (28.6)
	55 歳以上	16	3 (18.8)	1 (6.3)	17	1 (5.9)	1 (5.9)
	計	176	25 (14.2)	31 (17.6)	106	8 (7.5)	22 (20.7)
計	39 歳以下	260	41 (15.8)	60 (23.1)	84	9 (10.7)	16 (19.0)
	40 ~ 44 歳	245	37 (15.1)	41 (16.7)	167	12 (7.2)	36 (21.6)
	45 ~ 49 歳	295	38 (12.9)	44 (14.9)	281	28 (10.0)	45 (16.0)
	50 ~ 54 歳	210	24 (11.4)	23 (11.0)	105	7 (6.7)	18 (17.1)
	55 歳以上	122	13 (10.7)	7 (5.7)	43	2 (4.7)	2 (4.7)
	計	1134	153 (13.5)	175 (15.4)	680	58 (8.5)	117 (17.2)

()内: %

スギ花粉症: 花粉症状あり、スギ特異的 IgE 抗体陽性

軽度スギ花粉症: 粘膜症状あり、スギ特異的 IgE 抗体陽性

スギ花粉症と軽度スギ花粉症の差は治療または薬剤を服用したことの有無によるものである事から、症状の程度の差によるものであると考え、両症状群を合わせた有症率をみると、東大阪の有症率は 28.9 % (男:28.4 %, 女:31.8 %), 宮崎では 25.7 (男:25.3 %, 女:28.2 %) 宮崎の有症率に比べ東大阪の方が明らかに高率 (有意) であった。